



## 「インスピレーションになろう」 BE THE INSPIRATION

2018-19年度 RI会長／バリー・ラシン RI.D2590ガバナー／金子 大 横浜旭RC会長／市川 慎二

国際ロータリー第2590地区

### 横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区二俣川1-37-3 NJTS1階/〒241-0821  
TEL.045-465-6702/FAX.045-465-6712  
http://yokohamaasahirc.cho88.com

Email: asahirc@titan.ocn.ne.jp

例会場 横浜市旭区二俣川1-45-30工藤ビル  
(株岡田屋3階会議室)

例会日 毎週水曜日/12時30分～1時30分



被災地の子ども達にXマスプレゼント



チャリティーコンサート



ガールスカウトとクリーン作戦

## 2018年11月10日 第2359回例会 VOL. 50 No. 18 地区大会 (パシフィコ横浜会議センター)

### ■出席報告

会員数	31名	本日の出席数	19名
本日の出席率	73.08%	修正出席率	100%

### ■本日の欠席者

後藤、福村、目黒、宋、柳沢、滝澤、佐藤（真）

### ■地区大会

RI 会長代理 李 東建氏による  
国際ロータリーの現状報告



### ■ガバナー表彰

○40年以上出席率100%

二宮 登会員 48年

関口 友宏会員 43年

○長寿会員

矢田 昭一会員 S2. 8. 13

吉原 則光会員 S5. 10. 19

岡田 清七会員 S7. 9. 9

二宮 登会員 S10. 1. 7

太田 幸治会員 S10. 1. 12

今野 丁三会員 S12. 1. 26

関口 友宏会員 S12. 12. 10

○マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

佐藤 真吾、二宮 登、岡田 清七

○米山功労者マルチプル

田川 富男、佐藤 真吾、斎藤 善孝、

岡田 清七、安藤 達雄

○米山功労者

二宮麻理子、北澤 正浩

○物故会員

安藤 達雄 2018. 2. 13 逝去

\*会員敬称略

### ■「私たちが取り組んだクラブの活性化への挑戦」

○事例報告 横浜旭 RC 新川 尚

#### 【部会が育むクラブの活力】

2011年3月11日、この日未曾有の大災害が東北地方を襲いました。横浜旭では、すぐに被災地復興支援に何が出来るかの検討を始め、7月に就任した斎藤会長、千葉幹事の下、被災地クラブへの接触を開始し、宮城県岩沼RCとのご縁を得て、同年内に数回の被災地視察を実施。10月には、旭区ふれあい区民まつりにて、岩沼RCの協力を得て、被災地物品販売と写真展示、そして復興支援募金を行いました。



した。

そのことと平行して、前年度より企画として検討を始めておりました、地元の中高校生参加のロックコンサートを、社会奉仕委員会、インターアクト委員会が中心となり準備を進めておりました。

そのロックコンサート開催の背景には、中学高校の軽音楽部は、その活動の発表の場は文化祭や地元のお祭程度しかなく、また本格的な音響設備の整った場所での演奏は、費用の面、運営の面からも中高生だけでは難しい状況でありました。

そこでバンド演奏に造詣の深い会員の発案で、旭区地域内に所在する中学・高校の軽音楽部を有する学校全てに声をかけ、その場を提供することとしました。その際、せっかく生徒、保護者家族総勢 300 名を超える場所を設けられるのであれば、東日本大震災被災者への支援募金活動も同時に行う、そして被災地の現状をもっと知って、復興支援への関心を持って貰いたいとの思いから、地元の方々にもお伝えする良い機会と捕らえ、復興支援委員会を交え 3 委員会の共同でチャリティーコンサートとし、2012 年 1 月に旭区旭公会堂で行いました。

また、この機会をロータリークラブの広報の場とし、また費用を捻出するため、主旨にご賛同頂ける地元企業にご協賛をお願いする。このことは、先々の会員増強にも繋がる可能性があるとも考えました。

その後、長年に渡り好関係を築いてきた旭区区長、そして「旭ふれあい区民祭」で区の

地域振興課との協力関係を築いてきたことから、3 回目からは旭区後援事業というお墨付きを貰うことが出来ました。

第 5 回目には、東日本大震災被災地にある常盤木学園のバンドを、岩沼 RC が地元の地区補助金を活用し、当チャリティーコンサートに参加して頂き、被災地の生徒達と横浜市旭区の生徒達の交流を果たすことができました。

ここで常盤木学園の生徒の感想を一つご紹介します。「今回は私達に貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。このような形で横浜に行くことができてすごく嬉しいです。私達の中にはたくさんの被害を受け、辛い思いをした人もいました。でも周りの方の支えや支援のおかげで復興しつつあります。そして 5 年経った今でもこうしてチャリティーコンサートなどを開いて下さる皆さんがいてくれることが、本当にありがたいと思えました。横浜旭ロータリークラブの皆さんはとても温かく、私達を迎えて下さり、最初から最後まで本当にお世話になりました。私達はあのような大きなホールで演奏した経験がなく、不安や緊張で一杯でしたが、横浜の方々がとても優しく盛り上げてくれて、楽しく LIVE をすることが出来ました。今回のこの経験はこの先もずっと忘れません。私達の大好きな音楽で、皆さんと繋がりを持つことが出来て良かったです。これからもたくさん練習して、またどこかで演奏できる機会があったら今回の事を思い出して頑張ります。」

時間の関係で一生徒の感想の紹介ですが、この交流は被災の生徒と旭区の生徒達双方に大変意義のあったものと思います。

このチャリティーコンサートは今年で 7 回目を迎え、教育的な面からも生徒達の自主性を育成するため、徐々に運営を学生達に移行していきたいと考え、機材の搬入、搬出、タイムキーパーや募金集めなどの業務を各校に担って貰うこととしました。回を追う毎に出演各校の生徒達は、学校の垣根を越えて同じ旭区内の学校として、また音楽を楽しむ仲間としての交流を深めていったのです。

ある程度運営を任せたことで、自らが一つ

のコンサートを創り上げたという一体感、そして達成感も育成されていると感じております。

話は戻りますが、2011年8月の東北への第1回目の被災地訪問の後、会員の昭和幼稚園園長を務めておられる矢田会員より「被災地の保育園・幼稚園に通う児童達へのクリスマスプレゼントを渡してやって欲しい」という要望が岩沼RCに対しなされ、矢田園長個人が浄財10万円を送られました。

この事は、当初横浜旭クラブでは承知しておらず、岩沼RCから知らせました。まさにI Serveの手本であります。

この依頼に対し、岩沼RCは即座にご対応頂き、プレゼント配布先として数か所の保育園・幼稚園を選定し、12月に当クラブよりも数名の会員が現地に赴き数回に渡り、プレゼント配布を行いました。以後2014年に地区補助金を活用したり、チャリティーコンサート時の募金と「旭ふれあい区民祭り」時の募金を合算し、その資金の一部とする体制を整え、毎年継続しております。岩沼にてサンタになった横浜旭会員感想は一言「子ども達の目が輝いていた」とのことでした。

区民まつり・クリスマスプレゼント・チャリティーコンサートと3本の事業は現在も継続しております。その間岩沼RCとの交流から、友好クラブの打診があり、全員一致の承諾で、2013年2月に友好クラブ締結を行いました。

震災の翌年、2012年度にはクラブ内で災害復興委員会が発足し、3本の事業を支えて参りましたが、2015年度に、今度は横浜が被災した場合の防災対策に目が向くようになりました。

手始めに

①会員間の緊急連絡網の整備

②岩沼RCとクラブ間の、災害支援相互協定の終結

③防災マニュアル整備 を始めました。まず

①会員間の緊急連絡網整備はこれが難物で、若い会員はSNSで直ぐに出来ると思っておりますが、年齢層が高齢になるとFAXもおぼつかない状況です。それでも一斉送信の安否確

認を何回か試みている内に、7割は即答されるようになりました。

②災害時相互支援協定とは、仮に不幸にしてどちらかのクラブが被災した場合、約1ヶ月は被災地クラブは機能不全が予想される、その間相手クラブが代わって情報収集や出来る支援に動くというものです。これは、ロータリーの友にも特集記事として紹介されております。

③防災マニュアル整備ですが、手帳大の大きさのリーフレット、名称を「てんでんこ」（副題：防災簡易心得帳）と申します。

この「てんでんこ」は、岩沼RCと災害時相互支援協定を議論している過程で、災害に対する認識の違いが表面化し、そのギャップを埋める副産物として生まれました。この「てんでんこ」は区民まつりやコンサート等で区民に配布したりして利用しております。

余談ですが、RIのPast会長の田中作次さんにお見せしたら、これを売りなさい。そしてその利益でもっと広めなさいと励まされました。

2017年4月に熊本大震災が起こりました。6月に被災地クラブと連絡がとれ、7月に視察に行つて参りました。現地を視察すると、離れていては分からないことが沢山ありました。

一つには、4月に被災し、3ヶ月後の7月時点では、ロータリーの義援金が活かされていないということです。全国の義援金は地区の対策本部に保管されたままで、8月になって初めて被災地区のクラブが招集され、義援金の使い方についての議論がなされたとのことでした。そんな中、2650地区（京都・滋賀・福井・奈良）では、地区で災害支援基金が整備されており、その中からいち早く被災地RCの要請により、災害支援義援金を送り、道路をふさぐガレキの撤去費用に活かされたということです。

被災地ニーズは時とともに変化し、義援金はその際活用すればよいとは思いますが、夏祭りの景品への抛出と、ガレキ撤去への抛出とでは、その有効性に疑問を感じます。義援

金については後半にまたお話しします。

岩沼 RC や宇土 RC との交流のなかでいろいろな事を学び得ました。その一つに、被災地に必要なものを必要なタイミングでお渡しする大切さです。例えば、被災地での炊き出しの支援ですが、普通に考えると有意義なことだと思います。それが、継続されればですが。最近では災害の際コンビニエンスストアのネットワーク機能が注目されています。広島豪雨の際も政府は自衛隊を使って、コンビニに支援物資を供給する仕組みが機能しました。コンビニの会社でも、被災地に物資を優先して配送する手立てを構築し行っております。そこに、気まぐれに炊き出しイベントをしたところ、コンビニのおにぎりを腐らせてしまったということです。

また、ロータリーで被災地学童にランドセルが不足しているとの情報から、全国からランドセルが被災地 RC に届けられましたが、そこで誰が配るかという問題が発生しました。結局被災したクラブの会員が手分けをして届けたそうです。送る側と受け取る側のミスマッチを防ぐための方法。考えさせられることが沢山ありました。

横浜旭では、7月の熊本での視察後、現地の役所の要請として、仮設住宅の方の生活の移動手段として、自転車を寄贈してもらえないかとの要望が届きました。そこで、クラブ災害支援委員会で協議の結果、横浜市の放置自転車を払い下げしてもらい、それを送るのはどうかとの提案があり、早速横浜市に依頼をかけ、なんとかやりくりして、10月に50台、11月に50台合計100台の払い下げのめどが立ちました。

ただ、自転車のめどは立ちましたが、市内26カ所の自転車置き場から回収し、コンテナで熊本に届ける作業はクラブ負担になります。経費の捻出には、近隣クラブまた岩沼クラブからの協力を受けることが出来ましたが、それでも経費を少しでも抑えるため、サドル、ペダルを会員自ら取り外し、ハンドルを90度曲げて積みやすくしてから、会員自らがコンテナ集荷駅に出向いて、冷たい雨の降る中コ

ンテナに積み込み、JRコンテナで熊本まで運んで貰い、熊本の宇城 RC、宇土 RC を経て役所へ届け、被災された皆さんの足として利用して頂きました。この事はロータリーの友は勿論のこと、読売・朝日・日経・東京・神奈川新聞、また TVK、タウンニュース等に紹介されました。

後日、宇城 RC の幹事から次のような礼状が届きました。

「早速のご対応、感謝いたします。ご寄贈いただきました、宇城市役所分は責任もって組み立て・点検を完了し会員の整備工場から、本日、宇城市役所に納めさせていただきました。守田市長はじめ、浅井副市長も大変喜んでおられました。(中略)自転車をコンテナから降ろし、組み立てをしながら思いました。錆び付いたネジを緩め、固くしまったハンドルを自由にし、少しでも傷をつけないよう、多く積めるよう大変な作業だったと思います。今回の地震で、全国のロータリアンからの支援をいただきました。改めて、ロータリーの素晴らしさ、そしてロータリアンの高潔性を感じ心が震えました。大切なお時間を頂戴し、エネルギーを使っただき、もちろん輸送費等も大変だったと心得ます。追って、宇城市長からもお礼のあいさつが届くと思いますが、先ず、私からこのプロジェクトに関わっていただいたすべての皆様に、心からお礼を申し上げます。本当に、ありがとうございます。」

熊本からは後日、お二人でクラブにお礼に参られ、実際に自転車を使っている方を探し、ビデオレターで紹介していただきました。その際、やってよかったという多くの会員の感想をいただきました。

被災地域に素早い支援、その支援の効率化、有効性、透明性が求められる今、地域の人的な触れあいのなかで被災者ニーズを発見し、寄り添う支援の在り方。大変大きな課題であります。

ロータリーは I Serve を前提に活動しておりますが、緊急の際は、出来る事、皆があらゆるチャンネルを総動員して、人々を支える、

また備えをする。

先ほどご紹介しました 2650 地区災害対策支援基金の規約の中にこんな言葉がございます。

「基金は緊急時の対応であり、その後の継続的な支援については、持続可能でかつ人々の自立を支援するような、ロータリーらしい奉仕が求められていることは言うまでもない。自然現象を含めて、ロータリーも不測の事態に備えて、危機管理を今まで以上に充実しなければならぬ時代になった。」とあります。

微力ながら 9 月 26 日横浜旭では、「横浜旭 RC 災害支援基金」を設立しました。その指針は、

1) 災害に際して、これまで多くの犠牲に遭遇し、その教訓として今、私達が出来る事を迅速に行動に移す為に、基金を設立する。

2) 被災地ロータリークラブの支援事業に特化し、被災地に寄り添った支援、効果的な支援を目指す。

3) 先ほどの第 2650 地区災害指針より引用させていただきました。現在、会員は勿論のこと、OB に呼び掛け、地域企業・個人にもお願いしております。

実は、資金も大切ですが、もっと大切なことがございます。それは、東日本での岩沼 RC、熊本地震での宇土 RC、宇城 RC、益城町のりんどう RC というように、クラブ間の交流です。岩沼 RC とは、先ほどご説明しましたチャリティーコンサートを通じて、相互の高校生の交流、千年希望の丘の植樹、語り部の方の案内での被災地視察等、若者に何かを感じ、伝えてもらいたい。そんな思いから、岩沼 RC と共同で事業をやって参りました。そして、友好クラブの提携、そして災害時相互支援協定へと発展して参りました。

熊本でも、クラブ to クラブの支援が、送る側と受ける側のミスマッチを無くし、タイムリーで有意義な支援につながり、互いのロータリアンにやりがいのような、ロータリーやってよかったという思いにつながりました。

クラブ to クラブの支援、全国 2,200 のクラブが手を取り合い、地域のニーズに寄り添う支援が、ロータリーなら出来る、ロータリー

だからこそ出来るものと考えております。

振り返って考えると横浜旭ロータリークラブは、所謂委員会とは別に、あるプロジェクト・目的に特化した「部会」を設立し、そのメンバーは有志となっています。自ら志願してその部会に所属し、複数年に渡り活動を続けております。

例としては、数年前に終結した「メダカ」部会は、日本固有の在来種で、絶滅危惧にある黒メダカを近隣住民に頒布し、その生育方法も伝授して繁殖に一役買ってもらい、尚かつその育成を通じて環境問題を考えてもらおうというものでした。約 10 年間の活動の後、その役目を全うしたとして終結しました。

そして今は、チャリティーコンサート部会、災害対策委員会（名称は委員会ですが内容は部会）ですが存在します。会員の有志で組織しております。毎年担当の会員が入れ替わることは、皆さんに共通認識を持って頂きやすいというメリットはありますが、継続という観点から考えると少し難しい面もあります。数年に渡る部会活動だとその継続がしやすく、次々と成長・発展させていくことが容易になっていきます。

チャリティーコンサートから被災地支援と青少年交流、クラブ間交流から、友好クラブ、災害時相互支援協定、そして今、クラブ内災害支援基金と発展し、今後はクラブ to クラブのネットワークの構築を目指しております。何より、有志ですから、議論が活発です。そして次々とロータリーでやりたいことが湧いてきます。

最後に誤解して頂きたくないのは、決して今ある各委員会組織を否定しているわけではなく、一年毎の制度を否定しているわけでもありません。複数年かけて段階的に発展していく活動も考えて、実行していくことが、結果として会員のやりがいに繋がり、クラブにおいてクラブ活性化の一つとなっているものと考えております。

## ■次週の卓話

11/28 (水) 下田 康晴様（横浜市旭区長）

平成30年度10月出席率一覧表

員数	会 員 名	ホームクラブ	他クラブ	出席率	員数	会 員 名	ホームクラブ	他クラブ	出席率	
1	安藤公一	75	25	100	21	佐藤真吾	75	25	100	
2	青木邦弘	50	50	100	22	佐藤利明	100	0	100	
3	福村正	50	25	75	23	関口友宏	75	25	100	
4	後藤英則	75	25	100	24	宋謹衣	75	25	100	
5	兵藤哲夫	-出席規定免除-			25	須藤 亘	100	25	125	
6	市川慎二	75	25	100	26	田川富男	50	50	100	
7	五十嵐正	75	25	100	27	滝澤亮	75	25	100	
8	北澤正浩	75	25	100	28	内田敏	-出席規定免除-			
9	今野丁三	-出席規定免除-			29	矢田昭一	-出席規定免除-			
10	倉本宏昭	-出席規定免除-			30	柳沢哲也	75	0	75	
11	増田嘉一郎	75	75	150	31	吉原則光	-出席規定免除-			
12	目黒恵一	75	25	100	32					
13	新川尚	100	50	150	33					
14	二宮麻理子	50	50	100	34					
15	二宮登	75	25	100	35	高梨昌芳	名 誉 会 員			
16	岡田清七	-出席規定免除-			36					
17	大川伸一	100	0	100	37					
18	太田勝典	-出席規定免除-			38					
19	太田幸治	-出席規定免除-			39					
20	齋藤善孝	75	25	100	40					
例会日		3日		13日		17日		24日		平均
例会出席率		$\frac{24}{26}$	92.31%	$\frac{12}{24}$	50%	$\frac{25}{29}$	86.21%	$\frac{24}{29}$	82.26%	
修正出席率		$\frac{26}{26}$	100%	$\frac{22}{24}$	91.67%	$\frac{29}{29}$	100%	$\frac{29}{29}$	100%	97.92%